

植物と人々の博物館メールマガジン

第 113 号 2024 年 7 月 29 日発行



ミンミンゼミも鳴き始めて、とても暑い夏になりました。昼寝をしながら、ゆっくと過ごしましょうか。ご案内のために早めにお送りします。

中央アジア調査 1993 年のビデオテープを再発見し、写真館で DVD に複写してもらいました。かなり傷んでいますが、日比野さん／ピピノ撮影の中央アジア旅行、後半は岩谷さん／みなえちゃん撮影の大滝村エコミュージアムでした。ビジターセンターで、進ちゃんややっさんも写っています。環境教育関連のシンポジウムなどの記録ビデオもあります。環境学習教材の映像資料も保存してあります。50 周年記念史映像として、中込ゴメさんが編集してくださるようです。きっと面白いです。

植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理も一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。

1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：8月2日は10:30～14:10に開館します。井上さんも来てくださり、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

主な作業：下記に現況写真

- ①書籍・資料の整理
- ②民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50年記念
- ④植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

○報告

1) 食文化関連の書籍を整理しました。次は植物学関係の書籍、最終的には、海外調査で収集した書籍を整理します。森とむらの図書室は総計 8000 点ほどの資料・書籍になると思います。環境、食文化や民俗学関連の書籍はおおよそ移動しました。今後は、インド他の海外調査で収集してきた書籍を整理します。

2) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来 2025 年に創立 50 周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で一部公開しています。

<https://www.millettimplic.net/archives/historyinch2025.html>

○予定など

1) 民族植物学ノオト第 18 号は 2025 年 3 月末に発行する予定です。年内にご寄稿ください。また、自然文化誌研究会創立 50 周年の特集を加える予定です。これまでの記録集を整理しておきます。編集子は「希望と祈り」（仮題）で信仰論を書いてみたいのです。また、環境教育学会の歴史感想なども書きます。すべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

2) 電子書籍：

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、主な海外フィールド調査ノートデータベース化して公開しました。なお、個人情報削除しています。現在、主課題の第 4 章～第 8 章までインドの雑穀農耕文化複合をまとめています。2 年余りの調査記録を振り返るのはとても面白いです。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を始めました。

Windows11 は余計なものまで、勝手に入れて迷惑です、特に OneDrive。日本語音声変換もかなりお利口で、校正に時間がかかります。ドラゴンヴォイス 11 も役に立たなかったです。日本語のテープ起こしは容易ではありません。

退職後 10 年計画で進めてきた自選集全 6 巻は未完成で、やっとインドの核心地域、佳境に入りました。また、50 年の研究成果の概要をまとめとして栽培穀物の起原、栽培化過程、および伝播におけるインド亜大陸の重要な歴史的役割を解き明かし、その修正仮説を英文で要約（第 5 巻“Essentials of Ethnobotany”）するところまでは、あと数年頑張ります。とても面白いですが、1000 ピースのジグソーパズルのようで、複雑で難しいです。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.millettimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp）で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまで集成されており、とてもありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただ

けるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。

<https://www.millemplific.net/forestvil/forestvil.html>

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館へのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。ご希望の方には自給農耕ゼミ（佐野川）で有機無農薬により栽培したキビなどを精白／製粉して適量をお礼に差し上げます。これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

○予定 詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

7～8月は冒険学校、タイ・日本クラブキャンプ、などを予定しています。ラダワン先生は88歳になりましたが、とても元気な様子です。

○来年は創立50周年ですから、運営委員会で話し合いが始まりました（7月23日）。

『50年史』をまとめるとか、50年間に関わった人々と思いを語り合う会とか、企画が出始めました。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何千人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で1泊2日で過ごせたらよいか、あるいは小菅のキャンプ場で行うか、意見が出ています。

3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.millemplific.net/university/civicuues.html>

○ 報告

①今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しますので、種子継ぎなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。

kwangjuul1980@yahoo.co.jp ご連絡、ご参加をお待ちしています。

8月4日に、防雀網の設営を行います。宮本さん、井上さん他が参加します。

②簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。簡単な栽培、加工、調理についてお伝えします。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](http://farmsklec8p.pdf)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

○予定

植物と人々の博物館は今後も継続します。標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

<https://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

1) 今後の計画について検討しています。博物館研究員の学びを中心に、一般参加希望者には一部公開 zoom の方向で、環境学習セミナーを再開する案が出ています。次の環境教育学会（9月1日）での対面で自主課題研究を下記の通り企画しました。

8月7日に打ち合わせセミナー2回目を開催します。オブザーバー参加は歓迎します。参考資料準備中：

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/jsee24mk/jsee2024.html>

2) 第35回日本環境教育学会大会

日時：2024年8月29日～9月1日

場所：江戸川大学、千葉県流山市

https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35_chiba2024

学会創業者（編集子は INCH メンバーと一緒にこの学会を創りました）の遺言として、1年だけ会員に戻って、「環境学習原論一心の構造と機能」を一般口頭発表（8月31日か9月1日）で行う予定です。また、共同企画者数名の賛同を得ることができましたので、自主課題研究（9月1日）「希望を創る環境学習を求めて」も行います。人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、根底的な生活様式の実践哲学として ELF 環境学習過程を提案し、日本社会を復興する希望、学問について話し合いたいです。若い方たちと直接話して、反応を見たいです。提出した要旨は下記です。ぜひ、ご参加いただき、希望を創る話し合いの輪に加わってください。お願いします。プログラムが確定され次第ご案内します。

対話集会（第35回日本環境教育学会大会自主課題研究会）へのお誘い

この学会の準備および初代事務局長として、ぼくは自然文化誌研究会のメンバーの協力を得て学会を創りました。もちろん、高名な先達沼田眞さんはじめ、多くの方々との共同作業でもありました。学会創業者の遺言として、1年だけ会員に戻って、「環境学習原論—心の構造と機能」を一般口頭発表（8月31日か9月1日）で行う予定です。また、共同企画者数名の賛同を得ることができましたので、自主課題研究（9月1日）「希望を創る環境学習を求めて」も応募しました。人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、自然文化誌研究会で実践してきたELF環境学習過程に基づき、根底的な生活様式の実践哲学として環境学習原論を提案しました。日本の社会を復興する希望、学問について深く話したいです。若い方たちとも直接対話して、意見を聞きたいです。提出した要旨は下記です。ぜひ、ご参加くださり、希望を創る話し合いの輪に加わってください。よろしく申し上げます。

<余談>初めて関東支部会の研究会に出てみました。大学における自然体験、農耕体験の実践報告でした。マニュアル本が欲しいと参加者がおっしゃっていましたが、すでにたくさん出ています。農耕なら家庭菜園の本で十分間に合います。

実践はとても大切で、50年一日のごとくでも、とっても貴いです。学大では40年は実践してきました。しかし、一方で、理論構築がなければ、環境学習の重要さが世間から敬意を持たれません。これは現在の課題です。この学会が実践経験に基づいてしっかりした理論を蓄積できなかったのが、この会の衰退の主要因でしょう。自学会の成果である論文さえも引用しないで、データも論拠も示さずに、真に非常識、非科学的で、これでは学問としての蓄積、進展はないです。7月7日に、理事会主宰の関東支部会（所属は500名以上）で、20年先の未来について語り合うということでしたので、参加してみました。参加者は主催者含めてたった10名余りでした。編集子はこの学会の創業者として、創立時、10周年、20周年で、先達の助言にも従い、記念座談会で提言してきましたが、大方聞き流されてきたようです。30周年も35周年も反省座談会は企画されませんでした。

参加者の実践家は、環境学習活動を自ら大事にしなが、学問をもっと深めてくれと言っておられて、心強く思いました。小難しいのは環境課題や学習過程であって、編集子の屁理屈ではありません。理論がたたなければ、教育課程や教育制度をよくするための説得力は有りません。人々を動かすほどの理屈を捏ねなければなりません。三省堂の『こどもかんきょう絵じてん』は小生の理論で監修しました。幼児から小2生およびその親向きに編集してあります。子供でも分かる環境学習理論です。

企画提案代表者 木俣美樹男

(自然文化誌研究会／植物と人々の博物館研究員)

1) 第35回日本環境教育学会大会

日時：2024年8月29日～9月1日 場所：千葉県流山市、江戸川大学

https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35_chiba2024

2) 自主課題研究予定案：希望を創る環境学習を求めて 資料集

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/jsee24mk/jsee2024.html>

*一般発表予定案：環境学習による心の構造と機能の文化的進化

*学会の歴史と環境科、環境教育推進法、環境学習原論資料 などを含む

3) 対話進行案

○参加定員 40～50名

○9月1日、15:30～17:30 時間配分2時間

1.趣旨説明 木俣美樹男（自然文化誌研究会／植物と人々の博物館） 5分

2.全体対話 参加者に発言を多く求める 55分

指定討論者 必要に応じて 各数分

長浜和代（お茶の水大学附属お茶の水小学校）

小柳知代（東京学芸大学環境教育研究センター）

斎藤博嗣（一反百姓じねん道） ほか

4.自由グループ対話と報告 30分

全体対話の続き 25分

5.まとめの挨拶 福田恵一（元中学校教員） 5分

~~~~~

### 植物と人々の博物館（山梨県小菅村）:

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）

~~~~~

編集子独り言：

7年ぶりにハワイに行きました。COVIDのために海外へは長らく行っていませんでした。変わる事のなかったワイキキの浜辺の海を眺めているだけで、表情を瞬時に変える海の色、虹、サーファーやくつろぐ人々の賑わい、いつも心は平安です。幼児から老人までの大家族旅行でした。良いTシャツがありました。I live with pride. フタゴヤシやバオバブの巨樹や果実も見ました。

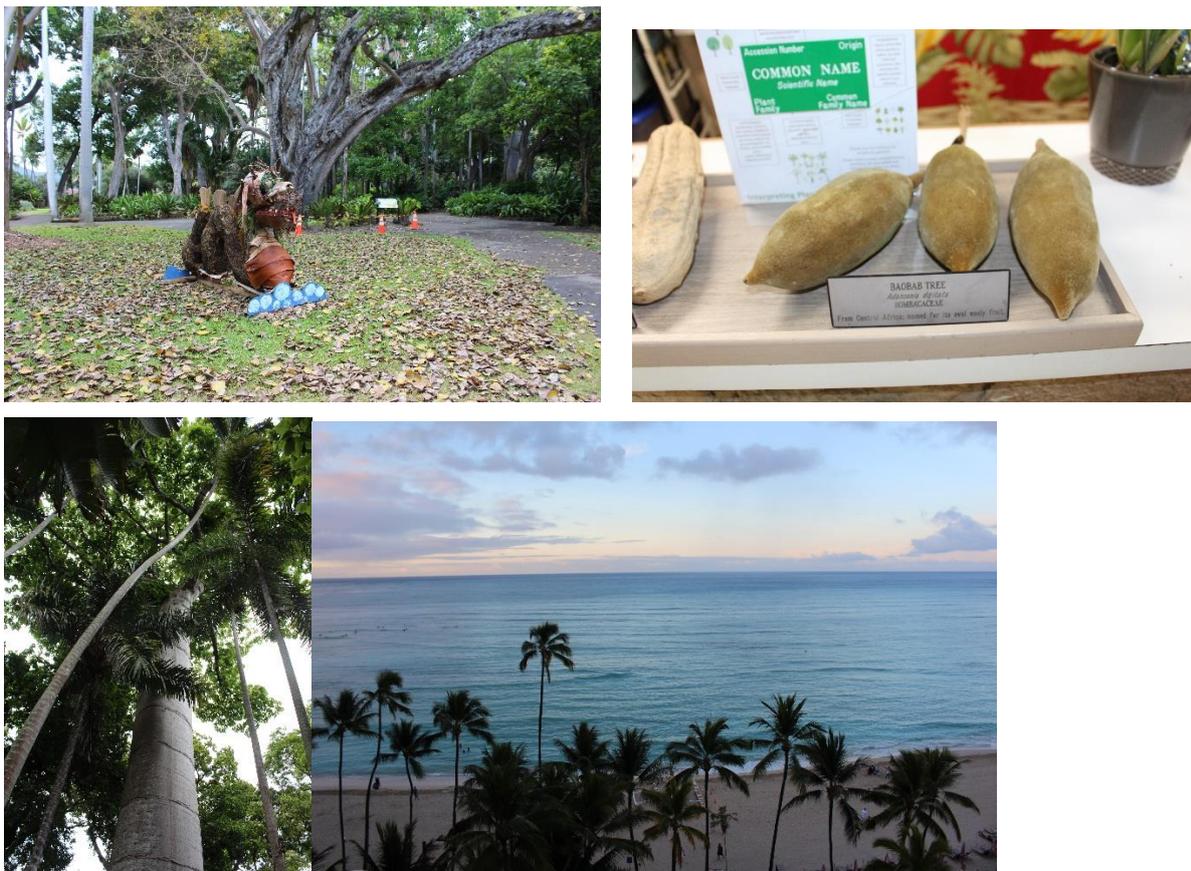
旅行帰りの飛行機ではDVDを見ます。今回はアバター2を見ました。美しい映像で、課題提起も深く、とても良い作品だと思います。アバター1はかつて映画館で観ました。人新世の爛熟期を予見させているのでしょうか。その未来を平安にするのは、人新世初期の対応にかかっており、今、環境学習が希望を創らなければ、アース

にもパンドラにも平安はないでしょう。ぼくはナヴィ族になります。環境教育学会での創業者としての提言は conclusively です。ぜひ、広く誘い合い、一緒に話し合っていたきたいです。

写真：



近所のハス、官本茶園のキビ出穂、雑穀成育状況。



フォスター植物園、モニュメント、バオバブの果実と巨木、ワイキキの海岸のココヤシ